

宮城県図書館の歴史と貴重資料



宮城県図書館資料奉仕部資料情報班

令和3年度みやぎ県民大学 学校等開放講座
宮城県図書館の歴史と貴重資料

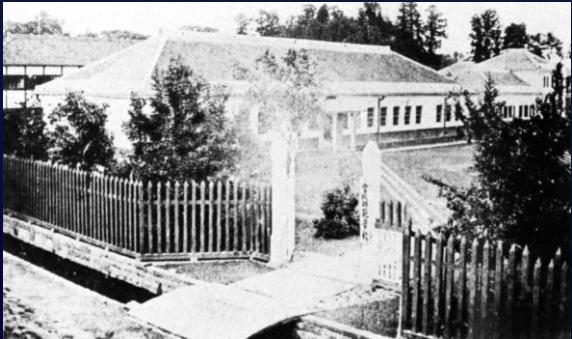
- 1 宮城県図書館の変遷
- 2 藩政期の五大文庫
- 3 宮城県図書館所蔵貴重資料の紹介
- 4 貴重資料の保存と活用

1 宮城県図書館の変遷 創立から現在まで

明治14年(1881)～明治25年(1892)

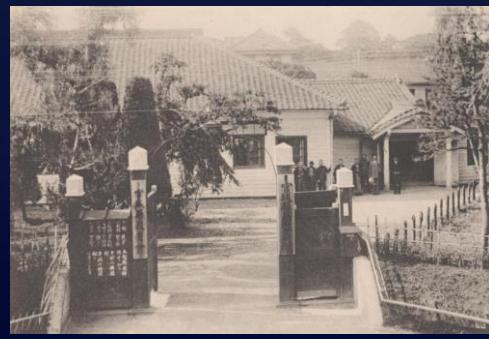
- 明治14年(1881) 7月25日
「宮城書籍館」として開館
- 宮城師範学校の講堂を閲覧室、書庫を業務室
と書庫に利用
- 蔵書数 17,682冊

明治14年(1881)～明治25年(1892)



宮城書籍館がおかれた宮城師範学校

明治26年(1893)～明治45年(1912)



明治26年(1893)独立館舎となり、
明治40年(1907)「宮城県立図書館」と改称

明治26年(1893)～明治45年(1912)

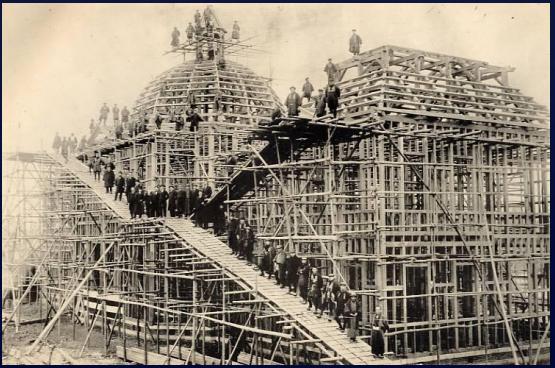


普通閲覧室（明治後期）

大正元年(1912)～昭和20年(1945)

- 大正元年(1912)
旧建物跡地の仙台市勾当台（現：勾当台公園南辺）に新築
- 延面積1,740平方メートル
閲覧座席数242席
- 蔵書数 68,000冊

大正元年(1912)～昭和20年(1945)



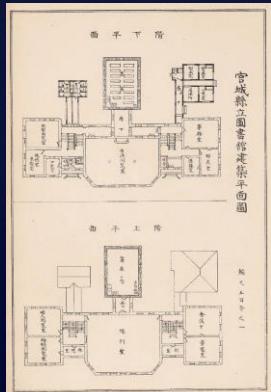
上棟式の様子（明治45年(1912)2月）

大正元年(1912)～昭和20年(1945)



定禅寺通側から見た全景

大正元年(1912)～昭和20年(1945)



大正元年(1912)～昭和20年(1945)



普通閲覧室

大正元年(1912)～昭和20年(1945)



児童閲覧室

大正元年(1912)～昭和20年(1945)



『最新仙台市大觀』（阿部彦三郎、1928）より

大正元年(1912)～昭和20年(1945)



昭和3年（1928）「東北遺物展覧会」の会場となった宮城県図書館
(東北遺物展覧会・菊田定郷編『東北遺物展覧会記念帖』東北遺物展覧会, 1933)

昭和20年(1945)～昭和24年(1949)

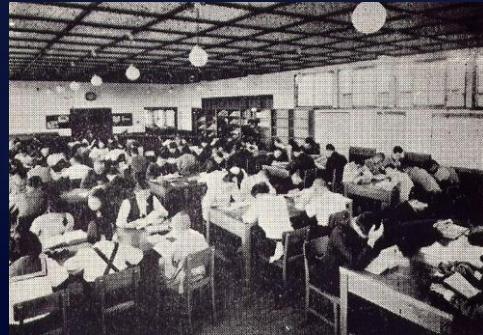
- 昭和20年(1945) 4月
貴重書の疎開作業開始
- 昭和20年(1945) 7月
仙台空襲により、疎開できなかつた資料約13万冊と建物が焼失
- 昭和21年(1946) 4月
復興建築地を旧養賢堂跡地（現在の宮城県議会庁舎）に決定
- 昭和24年(1947) 2月
新館で閲覧開始

昭和24年(1949)～昭和42年(1967)



旧養賢堂跡地に建設された新館

昭和24年(1949)～昭和42年(1967)



第一読書室

昭和24年(1949)～昭和42年(1967)



児童読書室

昭和43年(1968)～平成9年(1997)

- 昭和43年
仙台市榴ヶ岡に移転新築
(現：みやぎNPOプラザ等)
- 延面積4,040平方メートル
- 蔵書数 190,000冊

昭和43年(1968)～平成9年(1997)



昭和43年(1968)仙台市榴ヶ岡に移転

平成10年（1998年）～現在

- 平成10年
仙台市泉区紫山（現在地）に移転新築
- 延面積 18,100平方メートル
- 蔵書数 1,209,110冊（令和3年3月末現在）

平成10年（1998年）～現在



平成10年（1998年）～現在



2 藩政期の五大文庫

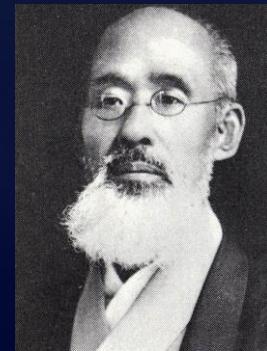
図書館以前の歴史

2 藩政期の五大文庫

- 大槻文彦「天保二年設立図書館青柳館文庫並青柳文蔵伝」（『図書館雑誌』（13），1911，pp.1-17.）

「明治維新前に、仙台に、私人蔵書以外の書庫、五処ありき」

2 藩政期の五大文庫



大槻文彦（宮城県図書館第8代館長，1847-1928）

2 藩政期の五大文庫

- 「第一は、藩主の書庫なり」
- 「第二は、藩の学校養賢堂の蔵書なり」
- 「第三は、仙台八幡町、大崎八幡宮別当龍宝寺にありし法寶蔵といふ書庫なり」
- 「第四は、鹽竈の名山蔵文庫なり」
- 「第五は、即ち青柳館文庫にて、純然たる公開図書館なり」

(1) 藩主の文庫

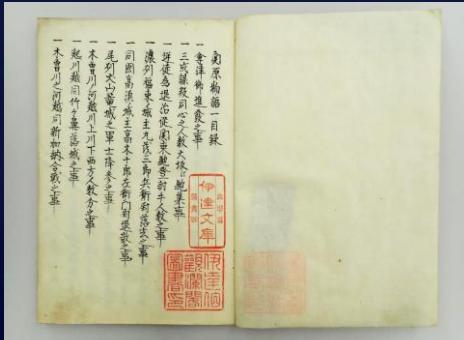
- 現在の「伊達文庫」との名称は宮城県図書館の特殊コレクションのひとつとして命名されたもの
- 藩政期には「御物置」と称された書庫に典籍・記録・書画等が収蔵されていたとみられる

(1) 藩主の文庫



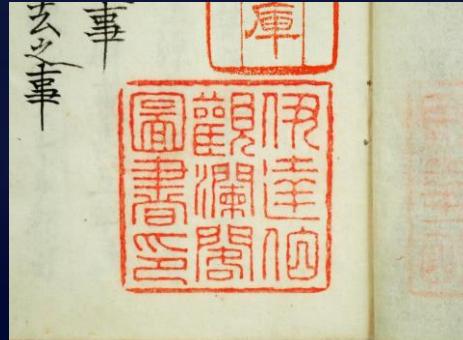
宮城県図書館貴重書庫内の伊達文庫

(1) 藩主の文庫



『関原物語』（伊達文庫）

(1) 藩主の文庫



蔵書印「伊達伯觀瀾閣図書印」

(1) 藩主の文庫



五代藩主伊達吉村の蔵書印「璧」

(2) 養賢堂の文庫

- 元文元年 (1736)
学問所設置、経書の素読・講釈が始められる
- 明和9年 (1772)
学問所を「養賢堂」と称するようになる
- 文化7年 (1810)
大槻平泉が学頭に就任、以後学制の改革と施設の拡充が進められ大規模な教育施設となる

(2) 養賢堂の文庫

- 安永8年(1779)附属書庫の設置以来、天保年間には約17,000冊に及ぶ書物を所蔵
- 明治維新後散逸したが、宮城書籍館創立時に一部が引き継がれた
- 算術や蘭学の学科が設置されていたことから、和算書や洋書も所蔵していた

(2) 養賢堂の文庫



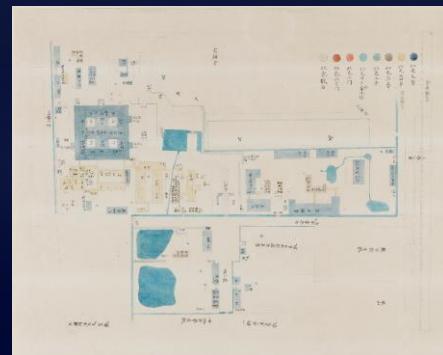
『仙台府学養賢堂図』（宮城県図書館蔵）

(2) 養賢堂の文庫



旧養賢堂講堂（戦災により焼失）

(2) 養賢堂の文庫



『仙台府学養賢堂図』（宮城県図書館蔵）

(2) 養賢堂の文庫



養賢堂内の「御書物藏」「御藏板搭場」
（『仙台府学養賢堂図』より）

(2) 養賢堂の文庫



箕作省吾『坤輿圖識』（養賢堂文庫）

(2) 養賢堂の文庫

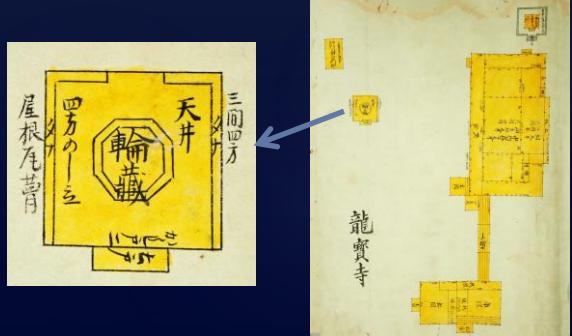


養賢堂蔵書印「仙台府学図書」

(3) 龍宝寺の法寶藏

- 龍宝寺（仙台市青葉区八幡）は、大崎八幡宮の別当寺を務めた一門格寺院
- 正徳4年(1714), 第25世の梅国泰音実政和尚が, 収集した書籍を寺の什物とし藩の管理下に置くことを申請し許可される
- これら書籍を収蔵する経蔵・輪蔵を自費で設置して「法寶藏」と号し, 有志の閲覧に供した

(3) 龍宝寺の法寶藏



『御修覆帳』（宮城県図書館所蔵）より「龍宝寺」

(3) 龍宝寺の法寶藏

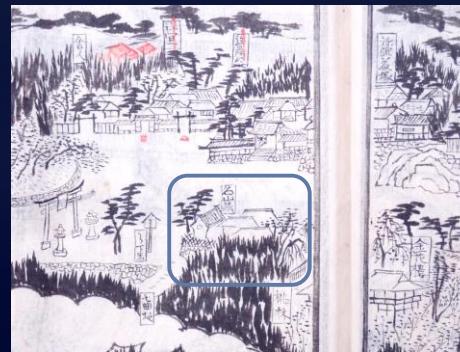


法寶藏内の輪蔵（回転式本箱）

(4) 藤塚知明の名山藏

- ・鹽竈神社の神官藤塚式部知明(1738-1800)の蔵書
- ・藤塚知明は高山彦九郎・蒲生君平など当時一流の文化人と親交があり、中でも林子平とは頻繁に交流があった
- ・名山藏は、安永年間に創設され、和漢の書数万巻が所蔵されていたと伝えられる

(4) 藤塚知明の名山藏



大場雄淵『奥州名所図会』（自筆稿本、宮城県図書館所蔵）
巻之三「鹽竈山上之図」より

(4) 藤塚知明の名山藏



『侍中群要』（小西文庫・飯川蓼廓旧蔵）

(4) 藤塚知明の名山藏



名山藏の蔵書印「名山藏蔵書印」「不出鹽竈山外」「不借不鬻」

(5) 青柳文庫

•磐井郡東山松川村（現在の岩手県一関市東山町松川）出身の青柳文蔵(1761-1839)が、蔵書と文庫の運営基金を仙台藩に献上し、天保2年(1831)に創設された公開の文庫

(5) 青柳文庫



青柳文蔵肖像（亀交山筆）

(5) 青柳文庫



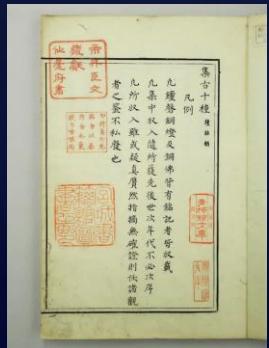
青柳文庫書庫（戦災により焼失）

(5) 青柳文庫



青柳文庫跡地の碑（仙台市青葉区一番町）

(5) 青柳文庫



『集古十種』（青柳文庫）

(5) 青柳文庫



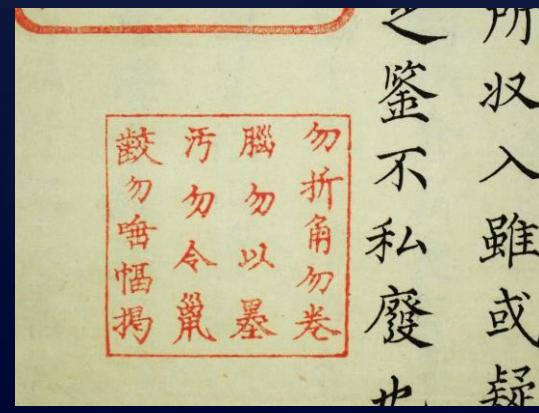
青柳文庫の蔵書印「青柳館文庫」

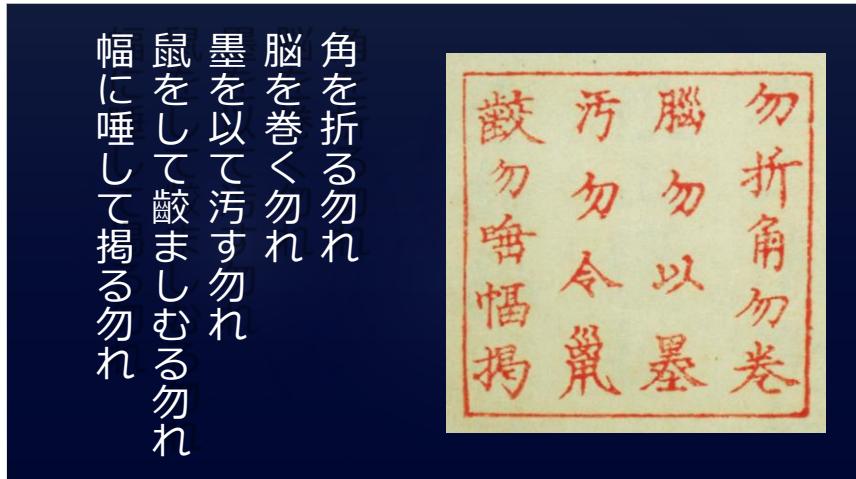
(5) 青柳文庫



青柳文庫の蔵書印「市井臣文藏献仙台府書」

(5) 青柳文庫の蔵書印





宮城県図書館所蔵の貴重資料

- 所蔵古書 57,807冊
 - 和古書 38,417冊
 - 漢籍 18,886冊
 - 洋古書 504冊
- 国指定重要文化財 2件
- 国登録有形文化財 1件
- 宮城県指定有形文化財 29件

3 宮城県図書館所蔵貴重資料の紹介

宮城県図書館所蔵の貴重資料

- (1) 国指定重要文化財
 - ・ 坤輿万国全図
 - ・ 陸奥国仙台領元禄国絵図関係資料
- (2) 宮城県指定有形文化財
 - ・ 絵図
 - ・ 博物図譜

坤輿万国全図（版本）6幅

万曆30年7月刊記

- イエズス会の宣教師マテオ・リッチによって作成され、明朝末期の万曆30年（1602）に北京で刊行された漢訳世界地図
- 宮城県図書館の所蔵となった経緯は不明だが、仙台藩の天文方にあったものが藩校養賢堂を通じて入ったものと推定される

坤輿万国全図（版本）



坤輿万国全図（版本）



マテオ・リッチ (1552-1610, 中中国名：利瑪竇)

坤輿万国全図（版本）



イエズス会の会章（3か所）

坤輿万国全図（版本）



坤輿万国全図（写本彩色）



原図を日本で精密に模写したもの

坤輿万国全図（写本彩色）



日本付近の拡大図

陸奥国仙台領元禄国絵図関係資料

- 江戸幕府は、支配領域に関する基本的な情報として国単位の地図である国絵図と土地台帳となる「郷帳」の作成を諸国の大名に命じた
- 国絵図は幕府の定めた基準に従って作製され、幕府は提出された国絵図を集成して「日本総図」を作製
- 幕府の国絵図事業は、慶長・正保・元禄・天保年間の4回が主なもの

陸奥国仙台領元禄国絵図関係資料

国絵図4点、絵図類49点、文書・記録類212点、
附 文書箱5合

- 仙台藩に一括して伝來した元禄国絵図事業に
関連する国絵図・際絵図などの絵図類及び文
書・記録からなる資料群

陸奥国仙台領元禄国絵図関係資料



〔陸奥国仙台領国絵図〕（元禄14年（1701））

陸奥国仙台領元禄国絵図関係資料



〔陸奥国仙台領国絵図〕より亘理郡・名取郡部分

陸奥国仙台領元禄国絵図関係資料



「陸奥國仙台領高郡合併郡色分目録」
（〔陸奥国仙台領国絵図〕より）

陸奥国仙台領元禄国絵図関係資料



[陸奥国仙台領際絵図 陸奥国相馬領之方扣]

陸奥国仙台領元禄国絵図関係資料



御本之小絵図（本紙）

陸奥国仙台領元禄国絵図関係資料



御本之小絵図（切形部分）

陸奥国仙台領元禄国絵図関係資料



御本之小絵図（切形絵図をかぶせた状態）

仙台城下絵図（推定 寛文4年）

〔仙臺藩製図〕写本（彩色）

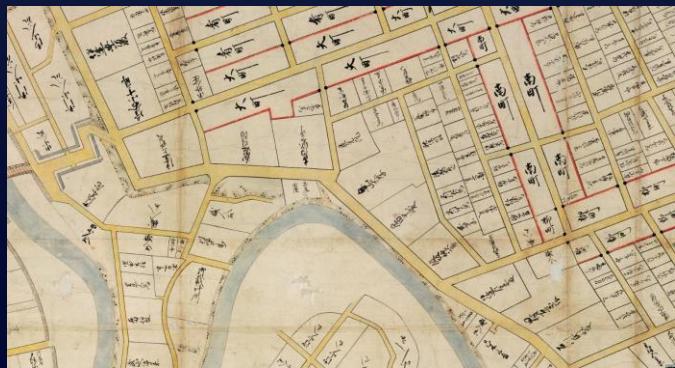
〔寛文4〕 363cm×376cm 1舗

- ・現在確認されている藩政用の城下絵図として
もっとも古いもの
- ・仙台城の本丸・二の丸の建物が立体的に描か
れている点が注目される

仙台城下絵図（推定 寛文4年）



仙台城下絵図（推定 寛文4年）



門闕や上級家臣の屋敷が置かれた片平丁

仙台城下絵図（推定 寛文4年）



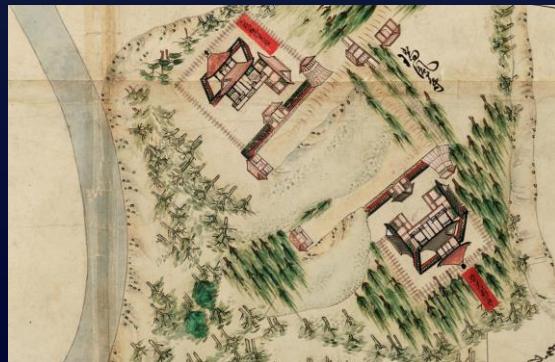
仙台城本丸部分

仙台城下絵図（推定 寛文4年）



仙台城二の丸部分

仙台城下絵図（推定 寛文4年）



「貞山様御靈屋」「義山様御靈屋」

文化元年御造営御絵図写

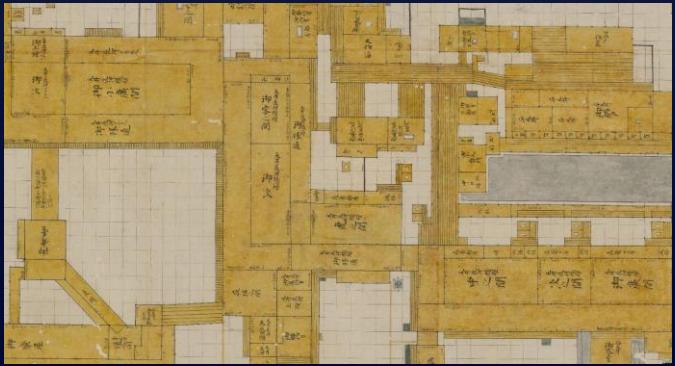
写本（彩色） 197cm×201cm 1舡

- 文化元年(1804)仙台城二の丸は落雷により発生した火災でほぼ全焼
- この火災からの復興のために製作された絵図とみられる
- 二の丸の建物の配置が描かれた絵図としては、もっとも細かく記載されている

文化元年御造営御絵図写

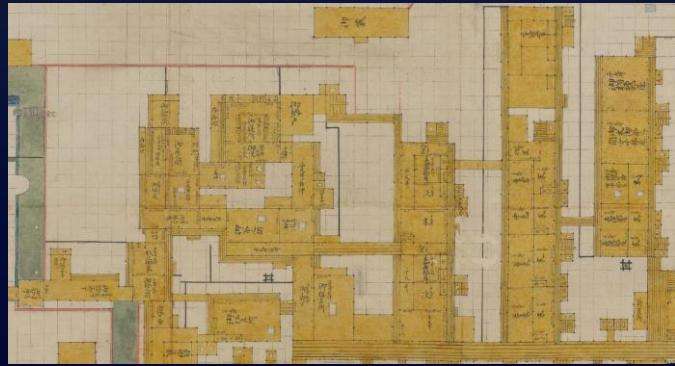


文化元年御造営御絵図写



小広間ほか二の丸の中心となる部分

文化元年御造営御絵図写



北西部の「中奥」

[禽譜]

堀田正敦編 写本（彩色） 寛政-文政中 11帖3巻

- 幕府の若年寄を務めた堀田正敦（1755-1832）が編纂した彩色の鳥類図譜
- 堀田正敦は仙台藩6代藩主宗村の8男。近江堅田藩主、のち下野国佐野藩主
- また9代藩主伊達周宗の後見人として仙台藩の家政を託されるなど、終生仙台藩と深い関わりがあった

禽譜



にはとり

禽譜



孔雀 雄

禽譜



ピングuin

魚蟲譜

写本（彩色）文政2－天保2 7巻 31.1cm（巻子本）

•幕府医官・本草学者であった栗本丹洲（1756－1834）の図譜を多数抄写した彩色の博物図譜

魚蟲譜



金鱗

魚蟲譜



マグロ

魚蟲譜



ハブ

魚蟲譜



水虎

4 貴重資料の保存と活用

貴重資料保存修復事業

- 所蔵する2,000点以上の文化財の中には、経年による劣化や虫損などにより損傷を受けている資料も
- 国指定重要文化財・県指定有形文化財のうち、約1,200点が絵図・地図類
→折り畳みによる本紙の劣化、顔料の剥落などのおそれがある資料も

貴重資料保存修復事業

国指定重要文化財・県指定有形文化財古絵図等 約1,200点



資料価値を損なうことなく、永く後世に継承

高度な保存修復学・修復技術に基づく修復

高精細デジタル画像・レプリカの作製

文化財の保存と活用の両立

原資料→特別展示・学術研究

デジタル画像・レプリカ→一般に公開

修復の実例



1.剥落止め



2.クリーニング



3.補修



4.継なおし

修復の実例



5.1層裏打ち



6.折損補強



7.2層裏打ち

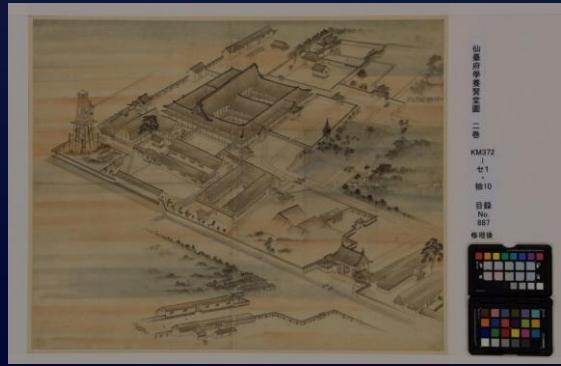
画像提供 国宝修理装潢師連盟

修復の実例



『仙台府学養賢堂図』（修理前）

修復の実例



『仙台府学養賢堂図』（修理後）

修復の実例



『仙台府学養賢堂図』修理後の収納

修復成果物の展示



当館展示室における展示

デジタル画像の作製・公開



デジタルアーカイブ『叡智の杜Web』内「宮城県図書館古典籍類所蔵資料」

デジタル画像の作製・公開



『仙台府学養賢堂図』のデジタル画像

デジタル画像の作製・公開



『坤輿万国全図』（版本・写本）の比較表示

レプリカやパネルの作製・公開



複製資料貸出事業を活用したレプリカ等の展示

マイクロフィルムや複製本の作製・公開



『英文翻訳彼理日本紀行』（大槻文庫）

マイクロフィルムや複製本の作製・公開



『英文翻訳彼理日本紀行』（大槻文庫）
マイクロフィルムと複製本

デジタル画像の作製・公開



「叡智の杜Web」ではデジタル画像を公開

まとめ

- 明治14年の開館以来、宮城県図書館は変遷を経ながら142年の歴史を重ねています
- 青柳文庫をはじめとして、旧仙台藩領にはさまざまな文庫が存在しました
- 宮城県図書館では、国重要文化財・宮城県指定有形文化財等の貴重資料を数多く所蔵しています
- 貴重資料を未来に伝えると同時に、広く利用に供するための取り組みを行っています

参考文献

- 小倉博, 小倉強「龍宝寺法宝藏」『宮城県史蹟名勝天然紀念物調査報告 第12輯』宮城県史蹟名勝天然紀念物調査会, 1938
常盤雄五郎『本食い虫五拾年』仙台昔話会, 1956
仙台市教育委員会編『仙台市文化財パンフレット第45集 仙台城下絵図の魅力』仙台市教育委員会, 2001
仙台市史編さん委員会編『仙台市史 通史編3』仙台市, 2001
仙台市史編さん委員会編『仙台市史 通史編3』仙台市, 2003
仙台市史編さん委員会編『仙台市史 通史編4』仙台市, 2004
仙台市史編さん委員会編『仙台市史 通史編5』仙台市, 2004
国絵図研究会編『国絵図の世界』柏書房, 2005
堀田江敦著, 鈴木道男編著『江戸鳥類大図鑑』平凡社, 2006
仙台市史編さん委員会編『仙台市史 特別編7』仙台市, 2006
朝倉治彦監修, 小井川百合子編集・解説『蔵書目録にみる仙台藩の出版文化 第1-4巻』ゆまに書房, 2006
早坂信子『公共図書館の祖青柳文庫と青柳文藏』大崎八幡宮, 2013
小野寺淳, 平井松午編『国絵図読解事典』創元社, 2021
早坂信子『司書になった本の虫』郵研社, 2021
- 宮城県図書館編『明治五年学制頒布五十年宮城県図書館創立四十年記念誌』宮城県図書館, 1922
宮城県図書館編『宮城県図書館復興記』宮城県図書館, 1949
宮城県図書館編『宮城県図書館年表』宮城県図書館, 1981
宮城県図書館編『宮城県図書館百年史』宮城県図書館, 1984
宮城県図書館編『宮城県図書館の貴重書』宮城県図書館, 1994
宮城県図書館編『みやぎの叡智』宮城県図書館, 2008

視聴いただきありがとうございました